No.81 contents

2　第107回二科展 総評
3　〈絵画〉新芽を求めて―第107回展示について
4　〈絵画〉今後の二科や展示をイメージした審査
　〈絵画・彫刻〉第107回二科展 受賞者
5　〈絵画〉第107回二科展 受賞作品―制作の視点
6　〈絵画〉第107回展会場から―会員による作品寸評
8　〈絵画・彫刻〉新会員紹介
9　〈彫刻〉総評
10　〈彫刻〉第107回二科展 受賞作品―制作の視点
11　〈彫刻〉受賞作品寸評
12　event memo
14　二科ショップ・チャリティー報告　彫刻部出品の皆様へ
　第107回二科展 巡回展スケジュール
15　2024春季二科展へ向けて　2024春季二科展 選抜出品予定者
16　訃報　トピックス　事務局だより　編集後記

二科

秋季

発行人：生方 純一　発行：公益社団法人 二科会
https://www/nika.or.jp/　TEL：03-3354-6646
E-mail：nika@nika.or.jp

107TH NIKA ART EXHIBITION 2023

絵画部 審査会　2023年8月28日

第107回二科展 総評

生方純一

２０２３年の夏は異常気象と言われ、酷暑が続き各地で度々の豪雨も発生し被害も多かった。被害地域が報道されると、その地の会員や会友、出品者の顔が浮かび案じられた。そんな厳しい夏の盛りに制作・奮闘をしている姿が偲ばれ、私も今年ほど制作で汗を流した年はなかった。

そんなことから今年の出品状況が案じられたが、搬入状況を見ると出品者数は昨年より増えていたが出品点数は微減という報告。

入場口から1F会場

３年ぶりに全会員による審査が実現し、審査室は久しぶりの再会や初めての審査参加で緊張気味な新会員との交歓など二科らしい場面が感じられた。しかし、審査の途中で体調の不調をきたす会員があり、検査の結果コロナの陽性が判明、その後数名に拡散。入院や帰郷する会員も増えて不安な状態だったが大事に至らず、その後の審査や発送業務は予定通りに進めることができた。

二科会は全会員による審査を標榜してきたが、今回の状況を踏まえると審査会場のスペースや人数からして明らかに「密」になりすぎる。数年の間、コロナ禍を考慮して理事と監事、運営委員の協力で審査をしてきたが、何らかの偏りが出るのではないかと懸念していたが、案ずることなく公平な審査ができていたと思う。そうした経験から、今年の全員審査による弊害から審査室の「密」を避け効率をあげるためにも、半分ないし三分の一くらいの人数での交代制審査案を検討すべきと思う。

審査結果は力作が評価されたが、パリ賞は問題が生じ今展では該当なしとした。

初日は猛暑にもかかわらずオープンを待つ沢山の入場者に並んでいただき、一同感謝の気持ちでお迎えした。

展示会場は展示委員の研究で全会場にゆとりを持たせ、展示にも工夫が感じられた。従来のU35奨励室やアニマルブース、50号の部屋などを設け変化を持たせた。3階の最終室には新たに出入り口を設けてドン詰まり感をなくした。入場者や評論家諸氏からもイメージチェンジによる好感度の評価をいただいた。

今展は特別展示として、ウクライナ大使館の後援でウクライナの写真家ヴェラ・ブランシュさんの写真40点を写真部の休憩コーナーに展示し、ウクライナの現状を感じていただいた。

チャリティーコーナーでは4部の会員からの出品協力を得て大いに成果があった。

初日の授賞式、新会員・会友推挙式の面接も予定通りに行われたが、ザ・リッツ・カールトン東京での懇親会は猛暑でもあり、コロナ禍の警戒もあってか出席者は減少気味だったが和やかな懇親会になった。

会期中の会場では研究会・ギャラリートークが行われ、また美術館講堂ではゲストを招き講演会を開催。今年は東北芸術工科大学学長の中山ダイスケ氏の講演と中原常務理事との対談を、そして塙常務理事と黒川理事による支援講座・ワークショップが開催され、盛り沢山の行事があり好評であった。

展覧会の終盤は連休とも重なって多くの入場者があり、特に感じたこととして今回は会期中を通して外国人の入場者が目立った。

入場者が昨年を大きく上回ったこともあり、最終日にはお手伝いいただいた会員に「大入り袋」を出して労をねぎらった。

絵画部 1階 12室

新芽を求めて――第107回展示について

中島敏明

二科展の絵画部は、一階1室から三階20室まで計48室で一つの森を営んでいます。大樹もあれば細い木、老木、若木等、107回展は1182本でした。「木を見て森を見ず」にならないように、我々展覧会委員は、この森全体をもっと輝かせるため、山中常務理事中心に昨年の反省を考察し対策の検討を重ねてきました。今回は特に三階に重点を置き改革をしました。

○作品振り分けについて

《会員作品》171名171点を理事、展覧会委員全員で各部屋の展示拡大図面に作品写真を仮置きしました。

《会友作品》一階に54名2点入選含め78点、二階に155名2点入選含め195点（一般作品》二階に108名108点、三階に573名2点入選含め628点、これを受賞作品から部屋区分のカテゴリーの順番に理事、各支部長、展覧会委員が適正な部屋へバランスよく部屋指定をしました。

○会場構成について

『二階』1室の入口に従来掲示物があった可動パネルを取り止め、1室の空間の広さをアピール。内閣総理大臣賞と東京都知事賞作品で華を添えました。10室と13室に抽象系作品、11室には具象系作品を配置、12室には会員推挙5名を並べ新鮮さをアピールしました。また14室・15室は彫刻部会場との往来を考慮した作品を配置しました。

『三階』基本会友作品で、1室は二科賞中心に比較的迫力系を配置、2室は抽象系、8室は具象系の秀作を配置しました。会友はすべて9室までとし、二段掛けを避けゆったりとさせました。各部屋の展示担当の工夫もあり、魅力ある二階になったと思います。

『三階』改革内容について

①3A・3B間の6室から15室の通路を閉じ、6室を広くして受賞作、意欲作を展示し奥の部屋のイメージを一新しました。

②4室・7室間の通路を閉じ導線回路を明確化。見落とし作品がないよう工夫をしました。

③11室のU35奨励室が入口から見える壁面としました。

④U35の出品者が増えてきましたので、奨励室二部屋を広く設け次世代育成強化を図りました。

⑤前回展まで閉鎖の出口扉を開けて出入り可能とし、活性化を図りました。

⑥3B中央の可動パネルを1.8m開け、入口に戻れるバイパス通路を確保しました。

⑦パネルを1枚外して一部屋減らし、19室・20室を広くしました。

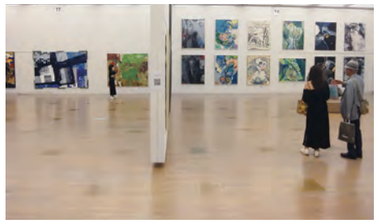
⑧19室を仮称アニマルブースと称し、動物をそれぞれの感性で表現された作品を一堂に展示し楽しめる部屋を試みました。

⑨最後の20室には受賞作やインパクトのある意欲作を展示、1室同様に魅力ある部屋としました。

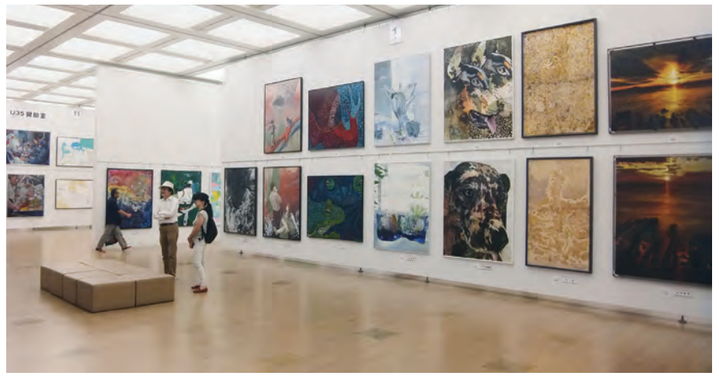
可動パネルの出し入れで展示壁長（展示点数）の差がなく、見落としが出ない導線もでき、少し明るい三階になったと思います。

いずれにしても、絵画の森は我々会員一人一人が質の高い魅力のある作品を発表することにより、自ずと森は輝き、来場者も出品者も増えるのではないでしょうか。

絵画部 3階 19室　アニマルブース


絵画部 1階 13室から14室へ

1階 15室から彫刻室へ


絵画部 3階 1室・11室(U35奨励室)

絵画部 2階 1室

今後の二科や展示をイメージした審査

山中 宣明

酷暑や台風等厳しい自然環境下での第107回二科展でしたが、審査、ギャラリートーク、作品講評会、講演会等コロナ禍以前に戻して実施した成果もあり、連日活況を呈し入場者も昨年より増加する等光明が見え、盛会裏に終了できたのは喜ばしいことです。

絵画部に関して搬入点数は微減であったが出品者数が2年続けて増えたのはひとえに支援部の旗振りで全国支部、広報部、事務局が一体となって出品奨励に取り組んだ結果だと展示担当一同感謝しております。

第107回の展示については、1階1室を拡げたことや3階の出入り口を増やし一般出品者の展示環境の大幅改善が好評であったこと等を中島敏明展示担当理事が詳しくご寄稿されていますので、是非ご精読ください。

最終日に生方理事長はじめ展示委員全員で各階各部屋を巡回し、来年度の更なる改善を目指して現場で意見交換をしました。●2点入選の展示方法の改善●各部屋の差別化、特徴付けと企画意図のわかる解説パネルの設置●賞札や初入選の文字を見やすくする、など入場者目線でこれらの課題に取り組んでいきたいと思います。私見ですが絵画・彫刻とも動物・生物を様々な表現でモチーフにした作品が多かったと思います。これはコロナ禍などを通してあらためて「命」の尊さに作家として向き合う時代であることをアニマルルームが好評であったことが象徴しており、全ての作品が息吹を感じる展示を目指していきたいと思います。

絵画部審査に関しては部会で決定した通り3年ぶり会員全員での審査で新会員も初参加し、二科らしい活気のある審査となりました。ただし残念ながらまだまだ感染対策が必要な状況であり、今後は会員の安全、進行等様々な観点から交代制審査も検討すべきとの理事会の見解もあり、来年度の絵画部会で具体的な改善案をもとに検討したいと思います。

どのような審査体制であろうと審査結果は展示・入場者・次年度の出品意欲・今後の二科の方向性に直結しています。審査員が展示コンセプト・プラン・過去の展示や審査実績等の情報共有したうえで審査をすることが大切です。多数・少数意見に関わらず建設的な意見を尊重しながら、基本路線をブラさず、かつ時代に対応したより良い審査を目指して参りましょう。

最後に来季春季展は会員作品を柱に、受賞者選抜、フリースペース、個展形式に加え、新たな特別企画としてS20号の公募もスタートします。思い切った新鮮な展示プランを展示委員会で検討しますので乞うご期待を！

審査風景

第107回二科展 受賞者

内閣総理大臣賞　加覧 裕子［東京］
文部科学大臣賞　林 一平［石川］
東京都知事賞　祝迫 正豊［鹿児島］

（絵画部）

二科賞
森山 麗子［兵庫］

パリ賞
該当者なし

SOMPO美術館賞
鈴木 綾子［愛知］

上野の森美術館奨励賞
黒川 壽子［千葉］

会員賞
石関 和夫［群馬］
上原 さつき［神奈川］
甲津 久生［滋賀］
辻 富佐美［神奈川］
餅原 宣久［鹿児島］
山口 博司［長崎］

会友賞
石原 琢二郎［鹿児島］
出月 智子［山梨］
小南 治次［滋賀］
坂本 啓子［京都］
笹島 裕美［石川］
立石 洋子［福岡］
辻田 悦子［三重］
中村 稔［愛知］
西垣 雅子［神奈川］
畠中 富雄［大阪］
日比野 恵美［愛知］
前川 普佐雄［埼玉］
山本 知子［鳥取］

特選
石川 政子［愛知］
石渡 美香［神奈川］
牛房 美穂子［福岡］
江島 良子［福岡］
遠藤 美和子［広島］
大蔵 千鶴［石川］
奥田 明宏［岐阜］
金子 豊実［埼玉］
木村 精郎［青森］
久野 真弓［愛知］
熊谷 得志［東京］
白井 偉之［福岡］
滝田 洋子［埼玉］
丹野 ゆき子［宮城］
寺澤 侑見子［愛知］
長江 明子［東京］
西田 昇平［熊本］
沼田 希世［神奈川］
服部 由美子［東京］
林 喜子［福岡］
広澤 良子［茨城］
古川 りか［兵庫］
丸岡 久美子［神奈川］
丸田 洋一［千葉］
水谷 奈穂子［三重］
三好 るり［福岡］

二科新人賞
浦野 聖菜［石川］

新人奨励賞
韋 藝［京都］
寺澤 望愛［愛知］

会員推挙
朝岡 幸子［茨城］
飯干 智子［愛知］
伊藤 友丈嘉［愛知］
井上 貴義［福岡］
今泉 光治［神奈川］
及川 寿美子［宮城］
小野寺 さゆり［宮城］
加治木 成美［京都］
亀田 憲子［神奈川］
川崎 美紀［東京］
上林 泰平［長野］
今野 真由美［神奈川］
近藤 隆弘［愛知］
島村 薫［兵庫］
杉戸 順子［愛知］
須佐美 恵子［大阪］
竹中 美浪［愛知］
土屋 真理子［愛知］
林 里美［滋賀］
福岡 ゆらり［愛知］
藤原 弘美［大阪］
丸山 良二郎［鹿児島］
村上 元彦［愛知］
木村 民治［千葉］
小原 禎二［神奈川］
髙橋 和平［宮崎］
坊中 静六［愛知］
水元 美穂子［京都］

（彫刻部）

二科賞
該当者なし

ローマ賞
廣瀬 友彦［東京］

彫刻の森美術館奨励賞
岩瀬 公子［新潟］

会員賞
川本 拓［神奈川］

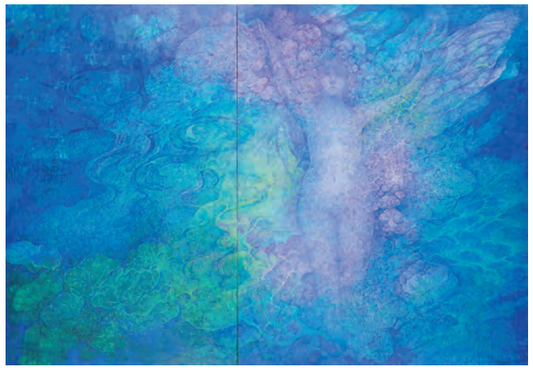
会友賞
岩崎 花菜子［東京］
古森 清五郎［新潟］
都丸 洋一［群馬］

特選
洗川 一男［愛知］
菅野 芽衣［東京］
山崎 千夏［神奈川］

会員推挙
角谷 豊明［新潟］
長谷川 聡［神奈川］
細田 愛由美［島根］

会友推挙
柴崎 益代［群馬］

第107回二科展 受賞作品 ― 制作の視点


■内閣総理大臣賞　讃歌　227×330

内閣総理大臣賞　加覧 裕子

キャンバスに油絵具を忍耐強く繰り返し重ね続ける作業。このアナログな制作をとおして画面から光が発するまでを待つ。

時間と根気は要求されるがその過程で遭遇する発見はとても魅力的で自分を導いてもくれた。もしも画面から発する気配が観る人の心の波長に触れて共有することが可能なら作家としての冥利と思う。

■東京都知事賞　時の狩人. 2023　194×324

東京都知事賞　祝迫 正豊

3年程前からか、新型コロナ感染で生活が困惑、先の見えない重い日々が続いた。そんな中、錦江湾の空を眺めていると、見たことのない心象的風景が見えた。空気は重く浮遊する巨岩と重なった。

描くことは狩人が獲物を射るようなもの、生きたその時代、時を切り取り描いているようだ。

■上野の森美術館奨励賞
線の解放（Ⅱ）　F100　黒川 壽子

■SOMPO美術館賞
凝視 突進　F100　鈴木 綾子

■二科賞　anima～いきとしいけるもの～be'
F100　森山 麗子

第107回二科展 受賞作品

■新人奨励賞　鮮美透涼Ⅱ　F80　寺澤望愛

■新人奨励賞　朦朧の夢　S60　韋　藝

■二科新人賞　クレーンゲーム
F100　浦野 聖菜

第107回展会場から―会員による作品寸評

1F 岩田　2F 金澤　3F 石橋

Metoro-2023-3　大槻　薫

大槻　薫

海底に沈んだ電車、その中を骨格だけの魚が泳いでいる、非現実的な作品。

一点透視図法を用い構成が面白い。対象物の動きをおさえた表現のせいか時間が停まっているようにも感じる。それが作者の意図か。

（岩田　博）

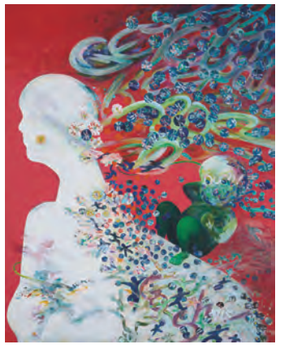
噴水のある公園　星野千鶴子

星野千鶴子

薄塗りの魅力的な作品。平面的に塗られた色面は、人物となり木立となり柔らかい空間を創り出す。互いに干渉する光でさえ平面化されて柔らかく存在する。

描写してしまいそうな手先の動きを抑え、感動を直に筆先に伝えているようです。

（金澤 英亮）



国境が攻めてきた。負けないよ。
知念茂隆

知念 茂隆

戦争をテーマにした作品である。バックのオレンジ色は明るく、母子の後ろから丸い物が渦巻き、トンボやヒトの形が躍動するところに上手さを感じます。左向きの女性のシルエットとバックのところは、未来に向かう前向きな気持ちを表現されてはどうでしょう。

（石橋 国夫）

夏始め、川原　石井晶子

石井 晶子

初夏の空気感のある風景作品。近景の左側手前の草を高くし、空気遠近法で遠景の森を表現できればさらに奥行き感が表現できる。

（岩田　博）

Abstract Build　川﨑英世

川﨑 英世

展示室で目を引く作品。「キャンバスに油絵具」という作品が多い中で、派手さは無くても存在感があり近寄らずには居られない。近くで見ると期待を裏切らない緻密さに見入ってしまう。模様には遠近感があり、頭の中に湖面のさざ波のような空間を創り出す。

（金澤 英亮）

遥かな旅　西本　誠

西本 誠

幻想的なグレーの色調に遥かな世界への誘いを受ける。絵画技法では盛り上げた独自の下地や引っ掻いた線描も近くで見ると魅力を感じます。離れて絵を見たとき弱くならないよう右上の樹木は、少し緑系を使い周囲と異なる表現方法を工夫されてはどうでしょう。

（石橋 国夫）

第107回展会場から―会員による作品寸評

1F 岩田　2F 金澤　3F 石橋

隠微　皆吉経之

皆吉 経之

大きい猫は、線描で金箔を使い、隠されたような小さい猫は丁寧な描写で独自の世界を表現されている。バックの黒は塗る仕事で、下の猫は描く仕事になる。描く部分をもう少し増やすことで鑑賞者をさらに引き付けることができるのではないかと考えました。

（石橋 国夫）

古木の幻想（鳥たち）
滝　洋子

滝 洋子

ダイナミックな形、味わい深い色、密度のあるタッチの作品です。グイグイと塗られた筆跡は重なりが魅力的で、絵具を乗せる快感が伝わって来ます。

暫く見ていると連鎖的に色々な鳥が見えて来て、パズルのような構成の複雑さに気付きます。（金澤 英亮）

I Love You 2023-Ⅲ
渡邉仁美

渡邉 仁美

激しく物体のようなものが流れ落ちてくる感じ、左右のバランス、マチエールを生かしコラージュが混じり合い、色を引き立て創造性ある作品。

（岩田　博）

実りの頃１　藤井　暁

藤井 暁

不等比皿手動はかりにブドウが載せられた静物画である。計測機会社に勤務されていたことがこの絵の原点にあるようで、ブドウの重さだけでなく、美味しさを測っているようで心惹かれました。はかりの質感表現をもう少し追求されてはどうでしょう。（石橋 国夫）

残影Ⅱ　松村　功

松村 功

厚みのある塗りと薄塗りとが重なり合い、ゆったりした空間を造り出している。厚みのある部分にはスクラッチがあり、マチエールから連想する建造物が並んでいるようにも感じる。

矩形の形はゆらぎのような変化をしながら繋がり、人物の気配もあります。

（金澤 英亮）

やすらぎの森　添野　忠

添野 忠

逆三角構図、森と少女のグラデーションを駆使し作品が分離しないように同系色でまとめ上げられた、心やすらぐ作品であるが、森の奥行きが欲しかった。

（岩田　博）

彫刻部　集合写真

彫刻部　総評

登坂 秀雄

第107回二科展が9月6日から18日まで国立新美術館において開催された。

彫刻部には展示委員会を設けている。会員（二年目10名、一年目10名）の輪番制で、彫刻部事務局と連携を図り、開催年度の展覧会運営に向けた任に当たる。107回彫刻部展示委員会は、政府が新型コロナ感染症対策を2類から5類へ方向転換し指針を示されたことから、コロナ禍において104回展以降休止していた一般出品者を交えた会友・会員全員での展示作業、出品者の交流の場となる懇親会の開催、鑑賞者との意思疎通を図るオープニングトーク、ギャラリートークの開催復活を決めた。3月から会期直前までZOOM会議等を通して入念な準備を行った。出品作品の傾向を鑑みながら、東京都美術館から国立新美術館に会場を移した92回展以降【展示場所において定位置を定めず】をモットーに展示委員全員で和気相合いと展示総数160点の展示計画が進められた。

結果として、二科会発足当初からの『一流一派にとらわれず、新しい価値を尊重し、創造者の制作上の自由を擁護し、抜擢する』とのコンセプトが活かされ、二科らしさが演出された明快な会場構成が出来上がった。

初日から家族連れの鑑賞者の姿が多く見られ、子ども達の声が響き渡る状況を目にして新たな幕開けを予感する喜びさえ感じた。

注目すべき点に、若手作家による動物彫刻作品が多く見られた事。環境問題の変化に敏感に感受するアンテナが高いせいであろうか。

昨年度106回展から設けられたカテゴリー30（30㎝）の展示は、絵画部と彫刻部の接合点に当たる展示会場をつなぎ、微妙に扇形に開いた二列での展示を試みた。結果として二列の中を鑑賞者がゆったりと双方向に行き来する導入口となり、会期中常に賑わいを見せる場となった。

野外展示において、作品点数は減少したものの作品間と鑑賞者の導線を考慮した豊かな展示スペースを感じさせた。作家の同意を得て彩色された木彫の大作の野外展示を試みたが、赤い触手を持つ抽象彫刻が背景の緑、空の青と融合し、野外空間との調和を見せ華やぎさえ感じさせた。今後の野外展示に光明を見た感がある。

107回二科展は例年になく酷暑の中での開催となったが、彫刻部独自のコロナ対策を講じた結果、展覧会業務中や会期中において熱中症やコロナ罹患者を出さずに済んだことにほっとしている。

最後に、展示委員に当たられた皆様が率先して仕事をこなして下さった事に感謝したい。

彫刻部　展示室

彫刻部　展示室

彫刻部　カテゴリー30

絵画部　新会員紹介

木村 民治

失われた街Ⅲ

敵の砲弾によってウクライナの美しい街と田園が次々に破壊され、失われてゆく様を抽象表現した。共感者は何処？

第97回 特選／第102回 会友推挙
第103回 会友賞／第107回 会員推挙

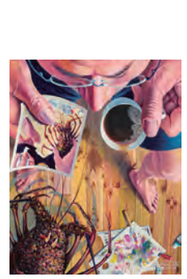
小原 禎二

Reflectors 2 錯

光沢を有する金属・果実等が反射する多様な光の情景は興味深い。反射体は自由に浮揚する。それを緊張感を持って描きたい。

第103回 パリ賞／第104回 会友推挙
第105回 会友賞／第107回 会員推挙

髙橋 和平



2023 画室・コーヒーブレイク

アトリエ内での自分の手足や画材を、俯瞰して描いてきました。伊勢エビや新聞等を加え、今後も郷土宮崎らしさの表現に努めて参ります。

第100回 記念賞／第101回 会友推挙
第102回 会友賞／第107回 会員推挙

坊中 靜六

BABEL 4

毎年、夏になると二科展に出品する。今では、これが私の普通の生活の一部となっている。

二科展に出品して早や40年、今、二科会会員に推挙され喜びも大きいが、これからどんな世界が見えるのか楽しみでもある。

第77回 特選／第90回 会友推挙
第95回 会友賞／第107回 会員推挙

水元 美穂子

8月の朝

日々の生活のなかで目にする、どこか面白いものや好きなもの、気になるものがテーマです。画面のリズムを大切に描きたいです。

第97回 新人奨励賞
第100回 パリ賞・会友推挙
第102回 会友賞／第107回 会員推挙

彫刻部　新会員紹介

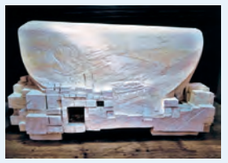
長谷川　聡

さらけだす

毎年、二科会の皆さまからの温かい声かけを励みにしながら、彫刻を通した自分なりの表現活動を継続してきました。この積み重ねを認めていただき、会員への推挙をいただきましたことを誇りに、今後もますます充実した表現力を発揮できるよう尽力して参ります。

第99回 特選／第103回 会友推挙／第104回 会友賞
第105回 記念大賞／第107回 会員推挙

角谷 豊明

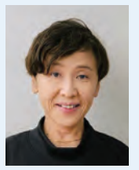


heavy snow

初出品からこれまで皆様方から暖かく育てていただき、21年目で会員推挙。感謝申し上げます。

心の曇りが取れスッキリとした気持ちで作品制作に打ち込めます。そして新たな壁が次々と現われる。これに立ち向かって作品制作を続けて行きたいと思います。

第95回 特選／第99回 会友推挙
第106回 会友賞／第107回 会員推挙



細田 愛由美

風を聴く

この度は会員にご推挙頂きまして、誠に恭悦です。

木と木を重ねて制作してきましたが、時間やその時の想いも重ねて紡ぎ出していったその塊から何かを醸し出すような、何かを感じて頂けるような彫刻を目指しています。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

第84回 彫刻の森美術館賞／第99回 会友推挙
第106回 会友賞／第107回 会員推挙

第107回二科展 受賞作品 ― 制作の視点

糸　　林　一平

プレスⅢ　　廣瀬友彦

文部科学大臣賞　林　一平

近年、心の動き、感情やバイブレーション、見えないものをテーマにカタチを置き換えて制作してきました。

今回はそれを「空間」にして、距離感、間の取り方に焦点を当ててみました。

日常の楽器や家具をモチーフに、演奏者・楽器・観衆の見えない交差する糸の景色を表現してみました。

ローマ賞　廣瀬友彦

今回のテーマは「自然を守れ」です。ウレタン芯材に石膏を直付けし、紙粘土で肉付けしています。ウレタンは指で押すとへこみ、紙粘土は石膏よりかたく固まります。この技法でより自由に制作できるようになりました。この技術を持ってイタリアで学習し直してきます。

うまれいづるところ　　川本　拓

夜気に眠る　　岩崎花菜子

会員賞　川本　拓

違う要素を一つの形として見せるのも好きだが、今回の作品はシンプルにすることを心がけた。

手の癖や形を増やしたい衝動と戦いながら「すっとそこにある」ということを意識した。

会友賞　岩崎 花菜子

日本古来の文化にインスピレーションを得て、いつもと違うやり方で実験した作品です。熱帯夜の続く夏、一度ひんやりとした夜気に完全に包まれた日があり ました。境界線、境目、表と裏のような自分のテーマをそこに感じて表現しました。

シエスタ（アカカンガルー）　　岩瀬公子

舞い上がったスプーン　　都丸洋一

Rock　　古森清五郎

会友賞　古森清五郎

何かのエネルギーを感じ、それを表現してきました。エネルギーという形のない物の表現は失敗の連続ばかり、しかし思い描いたイメージをそのままぶつけた時は、何とも言えない鳥肌の立つ感覚に魅了される。それを味わいたく作品作りを続けているのかもしれない。

会友賞　都丸洋一

二科展に出品して45年になります。この間、「魅力的な作品とは」という問いと向き合ってきました。

曲線の魅力にひかれ、量感・動勢を手がかりに。そして最近「重力感」が加わり、本作品となりました。

今回の受賞を自信に、さらに前進したいと思います。

受賞作品寸評

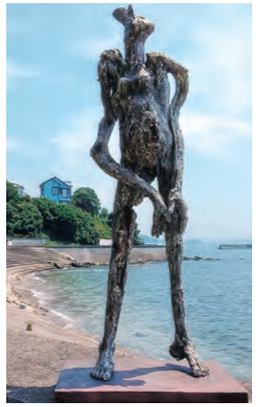
彫刻の森美術館奨励賞　岩瀬 公子

木材を形状に合わせ加工し「足したり引いたり」モデリング的な自由度が増す手法で組み上げている。

〝憩う人〟と思わせるポーズが鑑賞者を惹き込み、制作者の試行錯誤を感じる労作であり優作。〝カタチ〟に合わせた継ぎ目を検討し、自由な表現を次回作へ繋げて欲しい。　（阿部 昌義）

めざしているのは…　　菅野芽衣

The way is my way　　山﨑千夏



カタルシス　　洗川一男

特選　洗川 一男

人体像なのであるが、木の内包する力を生かし、彫り起こすように現された四肢、体をボルトとナットで締上げ、素材感を感じさせない程に塗り込み彩色された姿は何かしら偶像のような異形の姿をしている。創造に対する作者の想いを強く感じる。　（信時　茂）

特選　菅野 芽衣

楠の丸彫りの陸ガメである。綺麗な木の色だと思いよく見てみると、木肌を生かしたパステルでの彩色が施されている。彫り込みも丁寧で、じっくりと時間をかけ、慈しみながら仕事を進めたであろうと感じた。

今にも一歩を踏み出しそうな力強さが心地よい。　（島田 紘一呂）

特選　山﨑千夏

元気の良いクマである。信念を持って進むのである。

老若男女がこの作品の前で同じポーズをとりたくなるのは可愛いクマだからではなく、作品に与えられた量、動きによって生み出される弾けるようなエネルギーに触発されるからである。　（二ノ宮 裕子）

二科会 Instagram
二科会公式インスタグラムでは
・会期中の会場風景
・受賞者インタビュー　など、
二科展の様々なシーンを
発信しています
ART_NIKA_NIKATEN

NIKA 107th 2023 event memo

彫刻部 オープニングトーク　9月6日　11:00～　彫刻部展示室

懇親会　9月6日　18:00～
ザ・リッツ・カールトン東京

授賞式　9月6日　14:00～　3階講堂

内閣総理大臣賞　加覧 裕子

絵画部　会員推挙

文部科学大臣賞　林 一平

絵画部 作品研究会　9月6日　12:00～14:00

2F 11～13室　五味会員

3F 1～3室　浅賀会員

3F 4～6室　益子・柳田会員

ギャラリートーク　9月10日　絵画部13:00～　彫刻部14:00～

絵画部トーク　黒川理事

3F 19～20室　山下・及川会員

彫刻部トーク　野外展示場　菅原名誉理事

会員賞　川本会員

特選　菅野さん

支援講座・ワークショップ　9月8日　3階講堂

10:30～「茶碗のひびから白馬が翔んだ。描くって楽しい」　塙　珠世

幼い頃の茶碗のひびから白馬が翔んだ体験。絵を描くきっかけのパリで見たマザウェルの作品。

この度、支援講座を担当してほしいと依頼をいただき、さて、私に出来る後進への支援は何かを考えた。そして、絵筆を持つことが楽しく、全力でいつも目いっぱい描いている姿を語る事と、誰に頼まれた訳でなく自分で選んだこの世界だから、その心象を思い切りよく表現する大切さなど、審査の時にいつも感じている事をポジティブに全身で伝える、それしかないと思い臨んだ。

丁度デイヴィッド・ホックニー展を見て、押し寄せてくるエネルギーと輝く色彩、挑戦し続ける86歳のパワーが私の背中を押してくれた気がする。

アンケートには「エネルギッシュ」「創作の在り方に感動」「分かり易かった」など好意的な感想が多く安堵している。

ワークショップはシャガールの絵と各自の顔をそれぞれトレーシングペーパーに一筆書きで描いて貰い二枚を重ねる。意外な線の世界。新たな空間が生まれる体験。支援担当の方々に手伝って頂き、全ての作品を壁に貼って合評会。受講生とスタッフ共有の楽しい時を設ける事が出来た。

愛の画家と言われたシャガール。「芸術の源は愛」と述べたホックニー。

私も相手を思うやさしい心が大切だと思う。

キーワードはやっぱり、「愛」なのよね。

13:30～「色彩構成から思わぬ色が見えてくる」　黒川彰夫

二科展に出品するようになり五十数年になっている事を、今回自分の作品を回顧して気が付きました。京都市立美大の4回生から出し始めて今に至っております。その中で何が大切なことであったかを少しでも伝えられたらと思い初期の作品から紹介していきました。

大学のカリキュラムから感じた事、教授陣からの言葉など若い時に感じたことは今でも心の隅に残っております。制作をしている時ふと浮かんでくるもので、モノを見る重要性、それは形、色に発展し具象形態であれ、抽象形態であれ、いつも心の底に流れる基本的な考えになっていきます。

私の制作の原点である、モンステラの作品が発展していく様、風景を捉えた形の平面化、色面の構成からの単純化、静物画の構成、そして人物の登場（女性と騎士団の物語）の展開が続くが、具象傾向が強くなり、制作の方向性に違いを感じ具象表現に未練を残しながらも、再び色面構成の表現に変える様を紹介していきました。

影響を受けた作家として、モネ（印象派の原点）、有元利夫（空間の捉え方）、木村忠太（色面と線）、ベン・ニコルソン（静物、風景の線描と構成）、秋野不矩（壮大な空間）、ドスタール（色面空間）、三浦景生（大胆な色面）、そして今、気になる作家、村山春菜（線のおもしろさ）これらの作家は、いつも何かヒントを与えてくれました。

世阿弥が「花伝書」で「花」という事を言っていますが、能の世界の舞台効果です。このことは絵画の世界でも同じで、表現意図を効果的に見せないとダメだと思っています。いつも自分の信念を持って、一歩でも前に進むことが大切です。

台風余波の雨の中、多数の熱心な受講者におでかけ頂き感謝しております。そして、今回の講座で私自身、自作を振り返る機会を得たことは大変貴重なことでした。

講演会　9月15日　14:00～　3階講堂
講演会　中山ダイスケ（東北芸術工科大学学長）「生き方としてのアーティスト」
対　談　中山ダイスケ×中原史雄　「素敵な発想には何が必要か」

髪を後ろで結び、黒シャツに白パンツ、そしてスニーカー。講演を依頼した東北芸術工科大学学長 中山ダイスケ氏は、待ち合わせした二科展の会場で熱心に作品を鑑賞していた。どう見ても学長らしからぬスタイルの学長。いいね、これからの芸大学長像かも。さぞ学生達はのびのび学んでいるのだろう。

中山氏は現代美術家で、さまざまなインスタレーション、アートディレクターとして海外でも仕事をするマルチ表現者である。

語ったのは、芸術とデザインの境界について、芸術家の生活その在り方など、視野の広さを感じさせる新鮮な内容だった。

後の30分は私との対談。50名の受講者の大半が二科展出品者であり、自分らしい作品を描くには何が必要か「創り手」として分野の異なる二人が興味を持てるトークを、と考えたのだが、いま一つ噛み合わなかったようだ。

後進を育てるための支援講座も今回で5回目となった。担当するそれぞれの理事は結構プレッシャー。しかし頭の体操にも。いま二科展として欠かせないイベントになっている。さて次回の担当は。

◇二科ショップ・チャリティー報告

図録、絵葉書販売の二科ショップ、4部門会員の小品のチャリティー販売コーナーは野外彫刻展示場へ続く1F休憩室に設けられ、明るい外光で開放的な空間となっています。

今期チャリティー寄付先は、首里城未来基金へ純利益の40％、NHK厚生文化事業団へ30％、残りの30％をチャリティー準備金に充てると決定しており、107回チャリティー売上967,700円、純利益は660,000円となりましたので、首里城未来基金へ264,000円、NHK厚生文化事業団へ198,000円の寄付を致しました。

引き続き、充実したチャリティー販売による寄付、芸術支援活動が出来ましたことを、ご協力の皆様に御礼と共にご報告いたします。

◆ウクライナ写真家作品特別展示
平和への祈り
2F　休憩室C

彫刻部出品の皆様へ

注意事項のお知らせ

登坂 秀雄

二科美術展覧会 彫刻部出品規約をよくお読みになるとお分かりの事と思われますが、搬入から搬出までの注意点を列挙させていただきます。

①安全面
彫刻作品は立体作品ですので、接合部の不備等自立性に問題がある作品は展示中に倒壊の恐れが生じます。過去において他団体の事ですが倒壊して鑑賞者に危害を生じ、刑事事件となって作者本人が問われた事がありました。構造面には特に注意を払って下さい。

②搬入時の記載事項
前項にも関係しますが、彫刻作品を移動する際に細心の注意を払う必要があります。彫刻部では受付時にチェック係が取扱票を提出願っています。取扱票には作品画像、作品写真等の添付と注意点を出品者の観点から書いていただいています。展示の際にも重要な書類になります。

③知的財産権
知的財産権（商標登録等）に触れる可能性がある作品は、後で問題が起こらぬよう作者本人から権利者の許諾を受け、搬入時に【許諾証】の提出をお願いします。

④出品票に関して
海外からの出品者に関しても日本語表記の出品票での受付となります。キャプション等展示の際の事に関わりますので、必ず日本語に翻訳しての提出をお願いいたします。

⑤搬出に関して
搬出日に関しては、日時、時間が出品規約に明記されています。日時・時間内での搬出を遵守して下さい。期日が守られないと、作品保管料等の作家個人の負担が生じます。梱包・発送等一切の手続きを出品作家個人の裁量で業者と行っていただく事になりますので注意して下さい。

⑥出品料
出品規約に記載されています出品料とは審査料である事をご理解いただきます。

彫刻部　搬入風景

絵画部　搬入風景

一般の出品規約は
下記のQRコードから
ダウンロードできます
彫刻部　絵画部

第107回二科展 巡回展スケジュール

◆**東海展**
令和5年10月3日～10月9日
愛知県美術館ギャラリー

◆**金沢展**
令和5年11月9日～11月19日
金沢21世紀美術館 ギャラリーA・B

◆**京都展**
令和5年11月21日～11月26日
京都市京セラ美術館

◆**大阪展**
令和5年11月30日～12月10日
尼崎市総合文化センター

◆**広島展**
令和6年1月23日～1月28日
広島県立美術館 県民ギャラリー

◆**鹿児島展**
令和6年3月3日～3月10日
鹿児島県歴史・美術センター 黎明館

◆**福岡展**
令和6年3月19日～3月24日
福岡市美術館

2024春季二科展へ向けて

■2024春季二科展 新企画「NIKA+nika/S20号」コンクール■
「NIKA+nika/S20号」作品公募

実験と創造の場である2024春季二科展に新企画「NIKA+nika/S20号」コンクールがスタート！
公募展の醍醐味である大作と共に「S20号サイズ」でなければ表現できない小宇宙があります。
このコンクールに応募して春季二科展に展示される新たな魅力に挑戦してみませんか。
二科会の会友、出品者、一般の方々、学生等どなたでも出品（応募）できます。

☆会　　期　2024年4月18日(木)～5月2日(木)
☆会　　場　東京都美術館
☆搬入場所　彩美堂足立営業所：足立区南花畑4丁目33－7　電話 03-5242-3701
☆搬入日時　2024年3月25日(月) 26日(火) 直接本人搬入・宅配元払搬入 10：00～16：00まで
　　2024年3月29日(金) 搬入出業者による搬入 10：00～16：00まで
☆搬出場所　東京都美術館地下 春季二科展受付
☆搬出日時　2024年5月2日(木) 午後3時～午後4時まで
　　①直接搬出　②宅配着払(彩美堂委託による)　③搬入出業者
☆規　　約
●サ　イ　ズ：S20号　72.7×72.7cm　原則としてノーフレーム
　　(額無し展示をしますが、キャンバスの側面の鋲はテーピングして下さい)
●支持体自由：紙、キャンバス、ボード等
●描画材自由：油彩・アクリル・mixed media・鉛筆・墨・水彩等
●出　品　料：1点8000円　2点目から5000円
●作　品　集：入選作品は春季展作品集に掲載します。
　　作品集掲載料 3000円（1冊 会場にて贈呈）
●応募資格：18歳以上。国籍は問いません。
●審　　査：本会会員がこれにあたる
●審査結果：二科会公式ホームページにて入選者(賞)を発表します。
　　審査結果通知を各自に郵送します。電話でのお問い合わせにはお応えできません。
●　賞　　：S20特別賞　4名
　　特別賞受賞者は帝国ホテル本館(東京都千代田区内幸町1-1-1)
　　二科アートスペースに作品を半年間特別展示(販売可・売買成立時：作家50%)
●授　賞　式：2024年4月18日(木) 午後1時～　展覧会場にて開催
　　授賞式の後、受賞者ギャラリートーク・会員による入選作品講評会を開催。

◀「NIKA+nika/S20号」応募要項6点PDF取得
「NIKA+nika/S20号」入選(賞)審査結果発表▶
2024年4月3日(水)以降

2024春季二科展
展覧会情報はこちらから
↓

2024年4月18日～5月2日
東京都美術館

4月18日（木）
◆授賞式 13時～
◆受賞者・3つの個ブース
　ギャラリートーク
◆S20号入選作品の講評会

4月29日（月）
◆支援講座

2024春季二科展 選抜出品予定者

■絵画部

（個展ブース）
森山　麗子［兵庫］
鈴木　綾子［愛知］
笹島　裕美［石川］
（会友）
坂本　啓子［京都］
中村　稔［愛知］
辻田　悦子［三重］
石原琢二郎［鹿児島］
立石　洋子［福岡］
西垣　雅子［神奈川］
中　三保子［北海道］
山本　知子［鳥取］
（一般）
石川　政子［愛知］
石渡　美香［神奈川］
牛房美穂子［福岡］
江島　良子［福岡］
遠藤美和子［広島］
大蔵　千鶴［石川］
金子　豊実［埼玉］
木村　精郎［青森］
久野　真弓［愛知］
熊谷　得志［東京］
白井　偉之［福岡］
滝田　洋子［埼玉］
丹野ゆき子［宮城］
寺澤侑見子［愛知］
長江　明子［東京］
西田　昇平［熊本］
服部由美子［東京］
林　喜子［福岡］
広澤　良子［茨城］
古川　りか［兵庫］
丸岡久美子［神奈川］
水谷奈穂子［三重］
三好　るり［福岡］
韋　藝［京都］
寺澤　望愛［愛知］
奥田　明宏［岐阜］

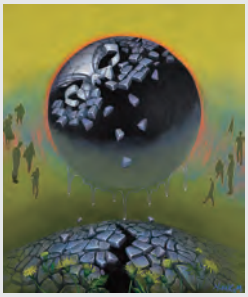
■彫刻部

（会友）
岩崎花菜子［東京］
古森清五郎［新潟］
都丸　洋一［群馬］
（一般）
洗川　一男［愛知］
岩瀬　公子［新潟］
菅野　芽衣［東京］
山﨑　千夏［神奈川］

絵画部会員（事務局）
馬渕　寿子　氏

二〇二三年九月七日逝去　享年72歳

略歴
一九七四年　第59回展初入選
一九七五年　第60回展特選
一九九九年　第84回展会友推挙
二〇〇一年　第86回展会友賞
二〇一四年　第99回展会員推挙



叫び　第106回展出品作

絵画部会友
木下　則之　氏

二〇二三年八月八日逝去　享年98歳

略歴
一九九九年　第84回展特選
二〇〇二年　第87回展会友推挙
二科鳥取支部　支部長
（二〇二三年六月二十五日まで）

絵画部会友
的場　五十彦　氏

二〇二三年九月二十四日逝去　享年80歳

略歴
二〇〇七年　第92回展初入選
二〇一二年　第97回展特選
二〇一五年　第100回展会友推挙
二〇一八年　第103回展会友賞

■トピックス

◆2世代で出品・入選の方も多い二科展ですが、今季は絵画部の寺澤侑見子さん、望愛さん親子が特選、新人奨励賞の同時受賞をされました。

◆絵画・彫刻二部門に入選された岩村明子さん、中村繁さん。彫刻部カテゴリー30には絵画・生方理事長も参戦、彫刻部での初入選をされました。平面、立体と限定をしない制作は相互に関連する豊かさを期するところです。

二部門入選　岩村明子さん作品

事務局だより

コロナが五類となり数字の上からも明るい兆しを感じる第107回二科展であった。

しかし一山越えるとまた新たな課題も見えて来る。

コロナ禍で学んだ事を活かしながら、また多様化する現代に併せて「二科会の危機対応マニュアル」を運営委員会で作成する事になった。選挙制度改革で運営委員が選出され、定期的会議で検討課題が審議され、理事会と疎通が図れる事は改革の成果だと思う。来春選挙は選挙管理委員会初代の寺田、渡辺、鷲崎会員から村上、酒井、安田会員にバトンタッチされ、改革が進んでいる。

二科展終了後の週末に開催した第一回絵画彫刻全体リモート会議は約40名が参加「107回展の反省と108回展に向けて」各部署からの報告や提案、SNS班メンバーの活動報告等を多くの会員が共有する。2020年コロナ禍での芸術支援金で購入したグッズが大活躍。PCでもタブレットでもスマホでもリモート参加出来る。そういえば今年、百歳を迎えられた田中良名誉理事長もリモートで理事会に出席された事等思いだされる。何処にいても参加しやすいこのツールを活用して、各部署で大いに意見交換出来るようになればと思う。

二科展会期中の九月七日、事務局スタッフ馬渕寿子会員が逝去された。温和で真面目で責任感が強く…、ワンチームを目指す事務局メンバーの突然の訃報に悲しみで一杯になった。

今年の特別展示はウクライナ写真作家による「平和への祈り」生ある者が一瞬にして命がなくなる。生き方は死に方にも繋がる。

人に対して、物事に対して、愛がやっぱり大切だと思う。

事務局長　塙　珠世

編集後記

今号は活動二年目のSNSチームと連携し、リアルタイムに二科展覧会の活動をビジュアル発信するチームの取材画像も入れ、紙面構成ができた。機関誌として発刊81号の本紙のタイムラグのある紙媒体機能とは異なるビジュアルの視点と感覚に紙面刷新のヒントを得て、今号表紙はバックヤード画像など多様なシーンをSNS風に構成し、動きと変化を意図した◆常に更新される情報の鮮度に対して、時間の集積において検証される記録性、紙媒体の有用性を意識しつつ、時々の会員の顔、作家の個性が会の魅力となる発信を探っていきたい。今号では「バックヤードにて・チーム紹介」を企画し、本誌編集委員とSNSチームの（さすがスタイリッシュな）集合画像も用意しながら紙面都合で次号掲載となった。更に企画を練って、順次各部署担当会員の紹介を掲載予定◆組織を閉塞させるセクショナリズムを廃し、会員相互の情報共有と連帯のためにも紙面を活用し、また広報誌としての充実を田浦理事と共に担当役員として務めたい。（N）

諸事情により途中から編集を前編集長にお願いした。デジタル化による変化が美術界にも押し寄せ、創作者はどう捉えるかが問われる現況がある。魂の籠った丁寧な作業こそ自身の心の投影になる。（F）

第107回二科展 概要

表1

	入場者　（前回比）
一般当日	4,289人　（1,380増）
前売り券入場	2,945人　（215増）
高校・大学	468人　（86増）
チラシ割引	490人　（238減）
団体割引	20人　（29減）
企画割引	429人　（336増）
新聞社優待券	316人　（33増）
有料入場者	8,948人　（2,250増）
無料入場者	55,609人（10,046増）
入場者合計	64,557人（12,296増）

表2

搬入点数	107回展　（昨年比）
絵画・一般	1,755点　（82減）
絵画・会友	654点　（56減）
彫刻・一般	86点　（5増）
彫刻・会友	19点　（9減）
合計	2,514点　（142減）

表3

展示（遺作含む）	人数（前回比）	点数（前回比）	35才以下 出品者数（前回比）	35才以下 応募・在籍数（前回比）
絵画・一般	681名　（18減）	737点　（25減）	54名　（6増）	56名　（8増）
絵画・会友	209名　（5減）	274点　（3減）	8名　（2増）	9名　（2増）
絵画・会員	171名　（1増）	171点　（1増）	－	－
彫刻・一般	69名　（6増）	73点　（7増）	23名　（2増）	25名　（4増）
彫刻・会友	19名　（9減）	19点　（9減）	4名　（3増）	4名　（3増）
彫刻・会員	56名　（4増）	73点　（3増）	－	－
展示合計	1,205名　（21減）	1,347点　（26減）	89名　（13増）	94名　（17増）

令和五年十一月三十日発行
公益社団法人　二科会
〒160－0022　東京都新宿区新宿4－3－15　レイフラット新宿　501号室
電話　03（3354）6646
FAX　03（3354）4768

編集委員
委員長（絵）深見　まさ子
委員（絵）寺田　眞
〃　〃　渡辺　倭文子
〃　〃　酒井　とし子
〃　〃　山口　博司
〃（彫）上田　快

★ 二科ニュースweb入稿用アドレス：**newsnika@gmail.com**